

証券コード

5020



JXホールディングス

2015年度 第2四半期決算説明資料

代表取締役社長 内田 幸雄

取締役 常務執行役員 大場 邦光

2015年11月4日



エネルギー・資源・素材の^{みらい}Xを。

JXホールディングス株式会社

事業環境、決算概要

➤ 事業環境	2
➤ 2015年度第2四半期決算概要	4
➤ 第2次中計最終年度における取り組み	5
➤ 2015年度通期見通し概要	6
➤ 設備投資、キャッシュフローの見通し	7
➤ カセロネス銅鉱山の状況	8
➤ 株主還元方針	9
➤ 第2次中計の進捗	10

代表取締役社長
内田 幸雄

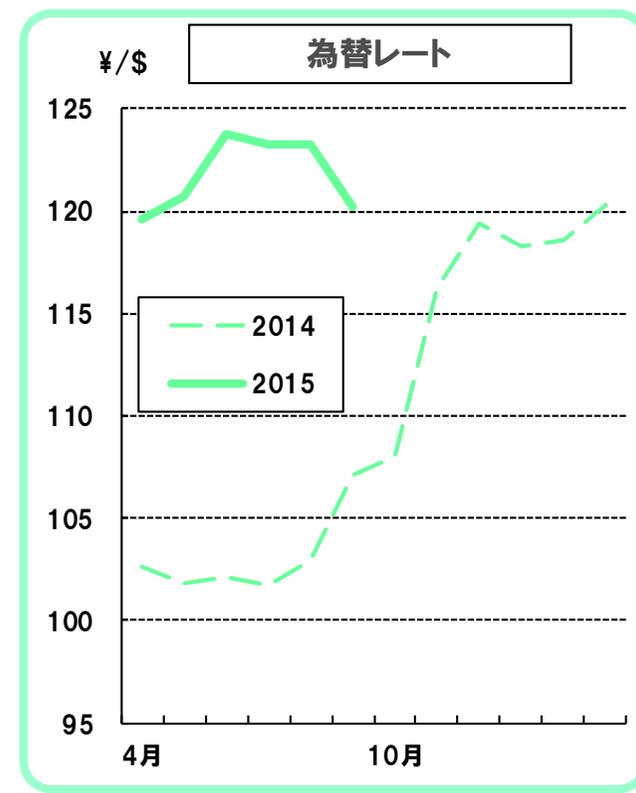
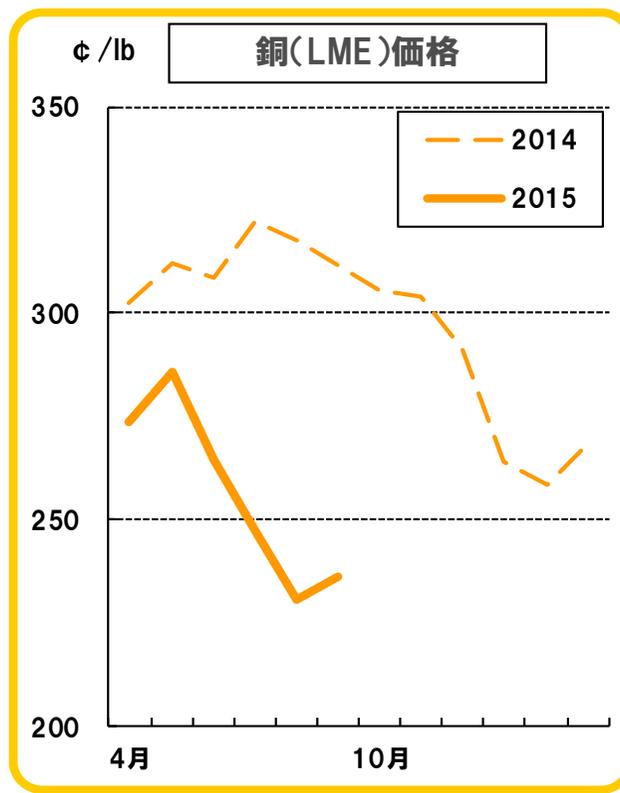
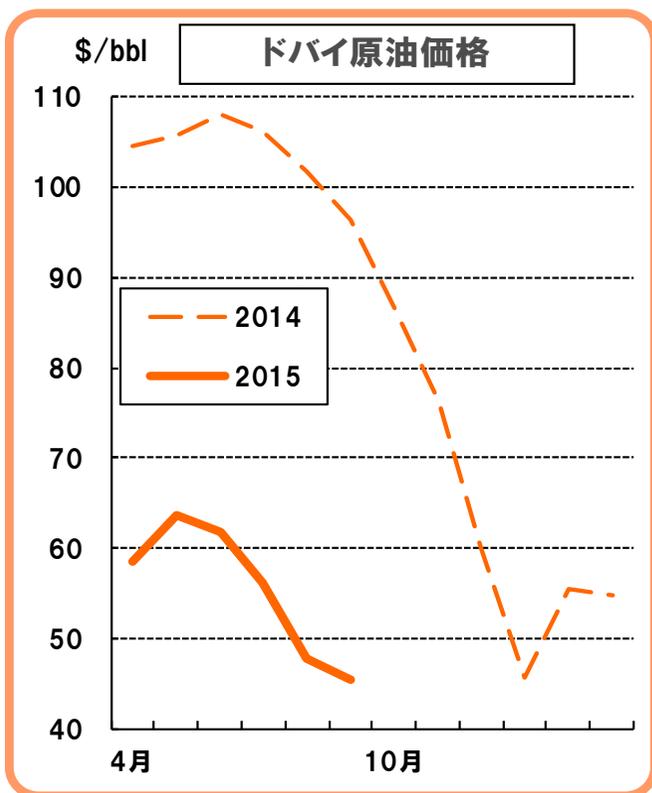
2015年度第2四半期決算、通期見通し

➤ 2015年度第2四半期決算	13
➤ 2015年度通期見通し	20
➤ 主なトピックス	26
➤ 前提条件	27
➤ 感応度	28

取締役 常務執行役員
大場 邦光

事業環境① 資源価格と為替レート（2015年4月～9月）

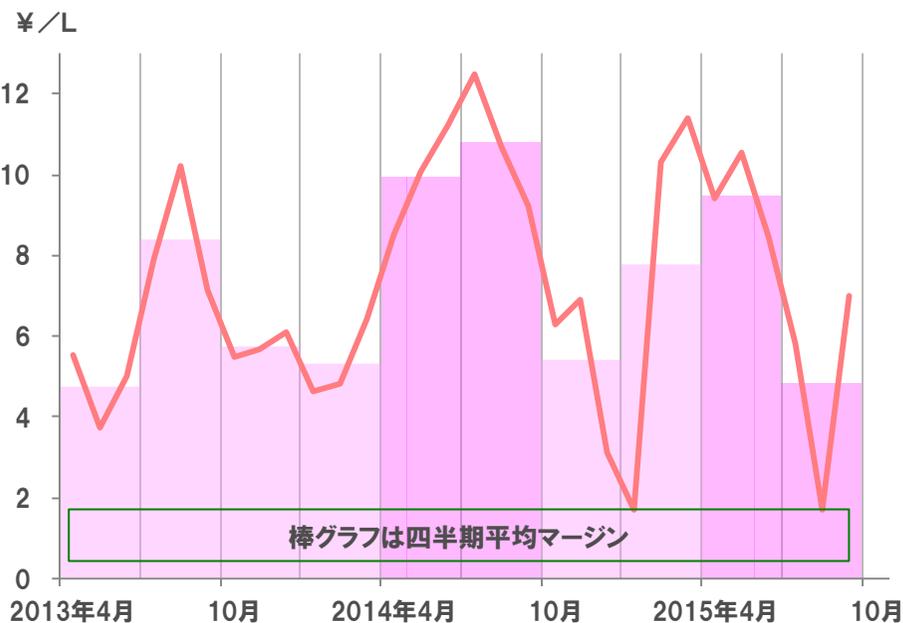
- 原油価格・銅価格は中国の景気減速懸念等を背景に、6月以降大きく下落
- 為替レートは120円/ドル近辺で推移



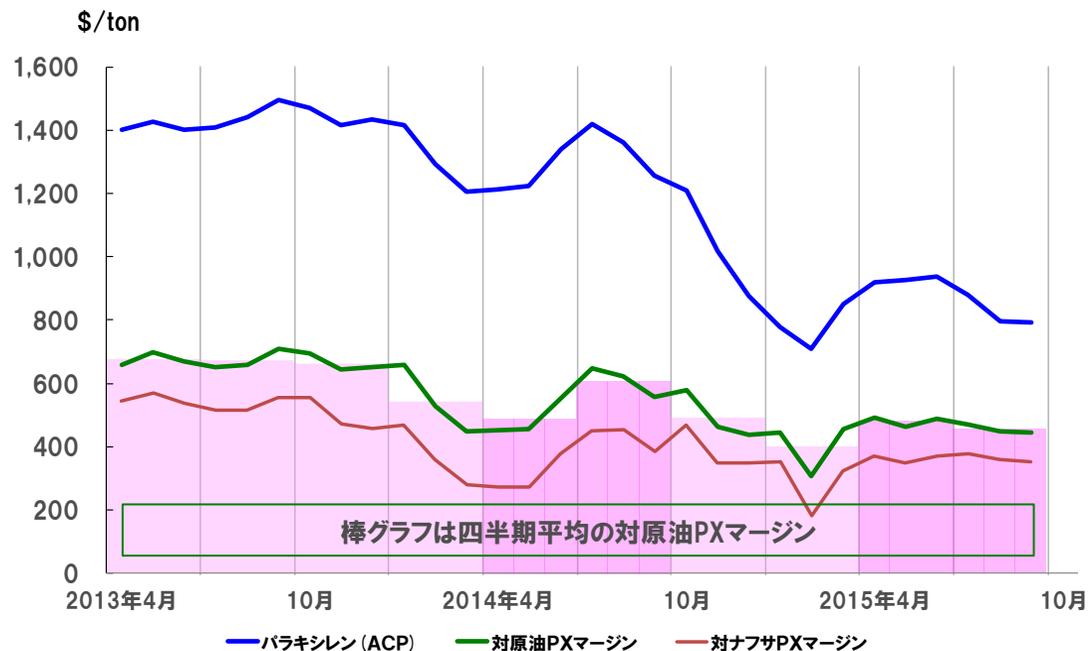
事業環境② 白油4品・パラキシレンマージン推移

- 白油4品マージンは原油価格下落に伴うタイムラグ影響により7月、8月と悪化
- パラキシレンマージンは概ね前年同期並み

白油4品マージン推移



パラキシレンマージン推移



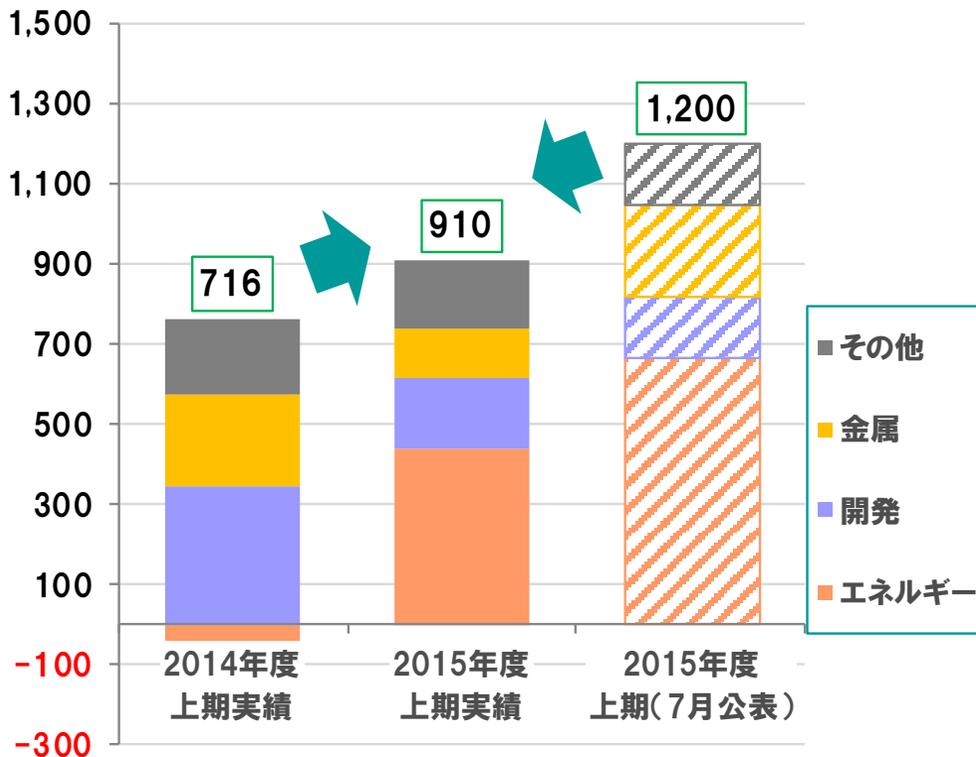
* スポット価格－全国通関原油CIF(石油税・金利含み)

* ACP未決の月については、スポット価格の平均値を使用

2015年度第2四半期決算概要

在庫影響除き経常利益

(億円)



経常利益

単位: 億円

	2014年度 上期実績	2015年度 上期実績	2015年度 上期(7月公表)
経常利益	420	▲277	1,400
在庫影響	▲296	▲1,187	200
経常利益 (在庫影響除き)	716	910	1,200

- 経常利益は、原油価格下落による在庫評価損の影響で、前期比減益
- 在庫影響除き経常利益は、前期比では増益も、7月公表比では白油4品マージン悪化を主因に減益

第2次中計最終年度における取り組み

- 第2次中計最終年度として、あらゆる施策を講じて利益を積み上げるとともに、投資の圧縮・資産売却により財務体質の改善を図る

足元の課題

- ✓ 低資源価格下における収益力強化
- ✓ バランスシートの改善(財務基盤の強化)

エネルギー

- 石油精製販売事業の収益力強化

石油・天然ガス開発

- 原油価格低迷下における事業戦略

金属

- 銅価格低迷下における収益力強化

対応

- ✓ 経費削減や省エネ・効率化を中心としたコスト削減
- ✓ 投資抑制・資産売却の着実な実行

- 安全・安定操業(トラブル削減)
- 競争力のある生産・販売体制の構築
- 需給環境適正化によるマージン確保

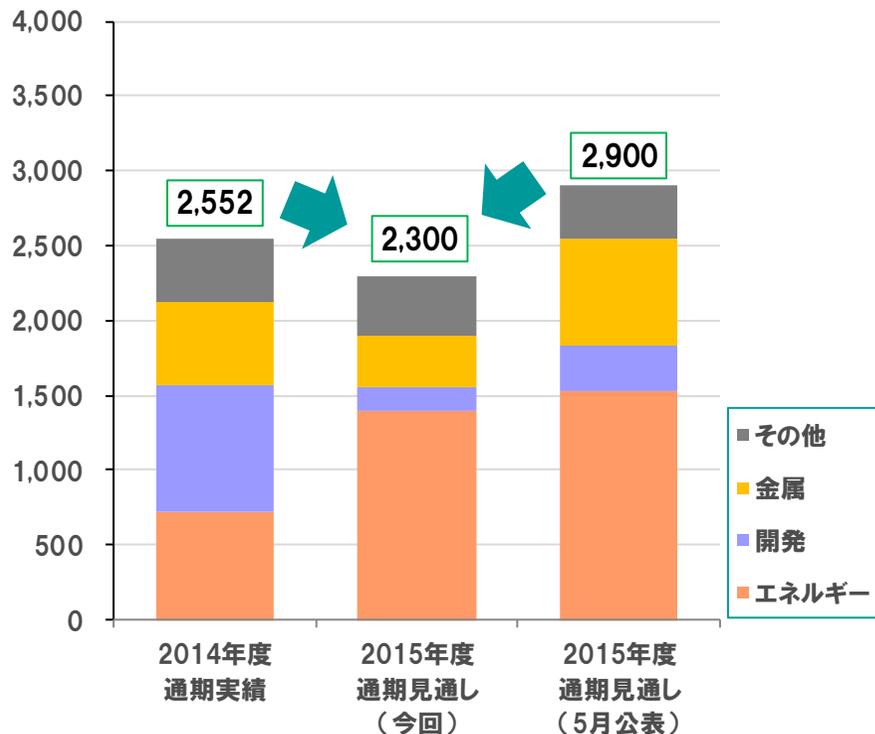
- コスト削減による収益向上
- ポートフォリオの入替推進

- カセロネス銅鉱山の早期安定稼働および操業費の削減
- 中下流事業の収益力強化

2015年度通期見通し概要

在庫影響除き経常利益

(億円)



前提条件

	今回	前回 (5月公表)
原油価格(\$/Bbl)*	53	60
銅価(¢/lb)	243	270
為替レート(¥/\$)	121	115

*3月から2月の平均(≒到着ベース)

経常利益

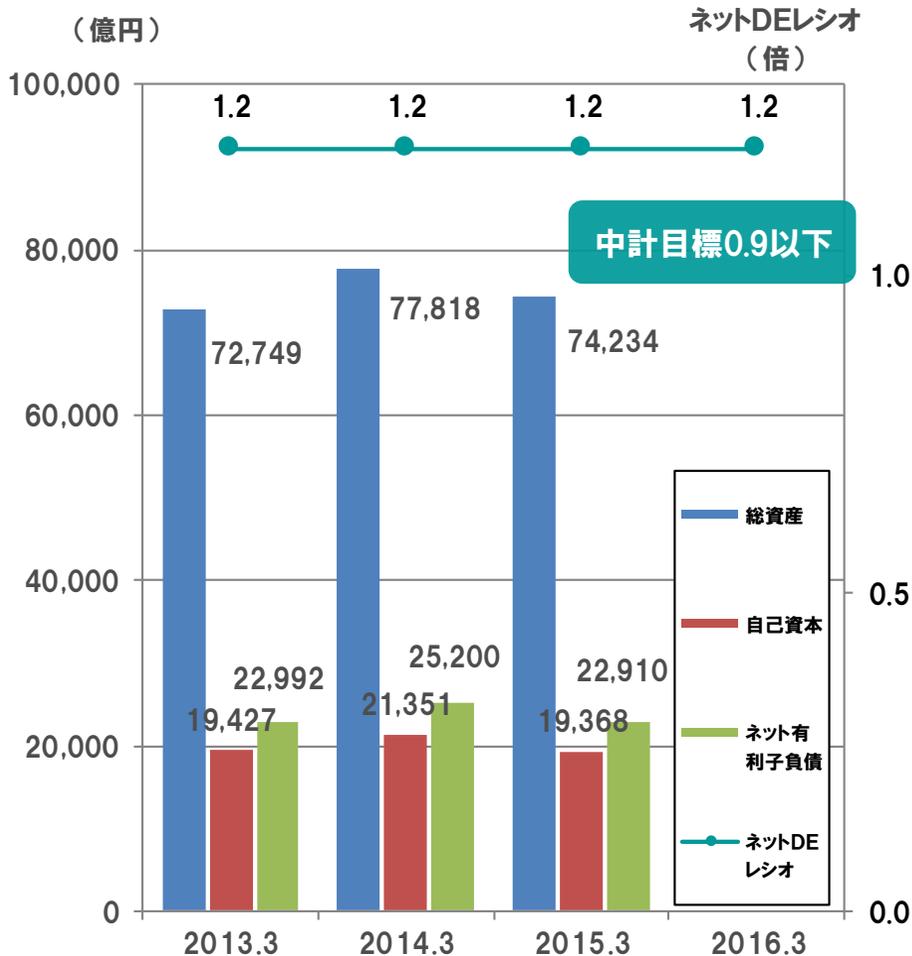
単位:億円

	2014年度 通期実績	2015年度 通期見通し (今回)	2015年度 通期見通し (5月公表)
経常利益	▲1,501	1,500	3,100
在庫影響	▲4,053	▲800	200
経常利益 (在庫影響除き)	2,552	2,300	2,900

➤ 在庫影響除き経常利益は、資源価格(原油価格、銅価格)の下落、白油4品マージンの悪化等により5月公表比減益

設備投資、キャッシュフローの見通し

ネットDEレシオの推移



設備投資

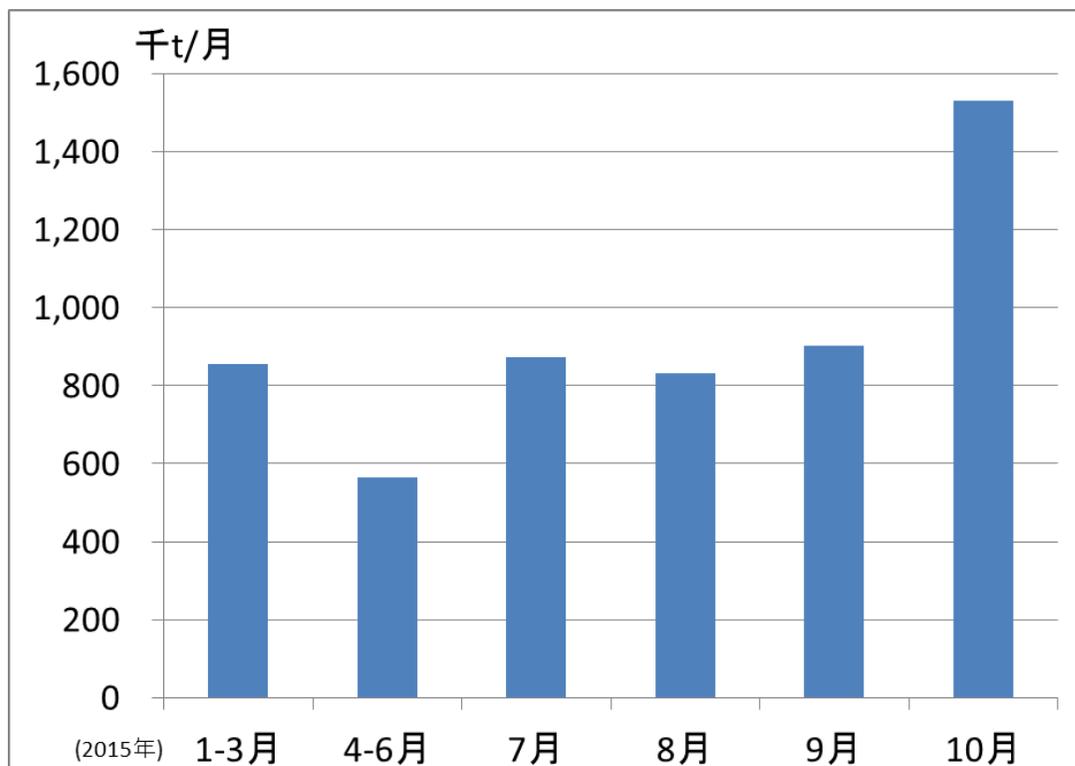
単位:億円	2013-14年度 (実績)	2015年度 (見通し)	3ヵ年計 (見通し)	第2次中計
エネルギー	3,000	1,500	4,500	5,400
石油・天然ガス 開発	3,100	1,200	4,300	3,900
金属	2,700	600	3,300	3,000
その他	400	300	700	700
合計	9,200	3,600	12,800	13,000

キャッシュフロー(2013-2015年度累計)

単位:億円	(今回見通し)	(第2次中計)
経常利益	3,000	11,000
減価償却費	6,200	6,500
運転資金他	5,100	▲3,300
営業キャッシュフロー	14,300	14,200
投資キャッシュフロー	▲11,800	▲12,400
フリーキャッシュフロー	2,500	1,800

カセロネス銅鉱山の状況

月あたり粗鉱処理量(銅精鉱生産工程)



安定的なフル稼働による 長期連続操業に向けての課題

2015年2月

- 自動運転プログラムの構築
- 廃さい堆積場の整備



2015年9月

フル稼働が可能な体制を構築

現状

- フル稼働レベルでの操業において生じた不具合の調整を実施中

株主還元方針

還元に関する基本方針

連結業績を反映した利益還元の実施を基本としながら、
安定的な配当の継続に努めてゆく。

第2次中計期間における還元の考え方

基本方針に基づき、第2次中計期間(2013～15年度)においては、
1株当たり年間16円の配当の継続に努める。
既存事業からの収益を安定的に確保し、戦略投資からの
リターンの実現が見通された段階で、増配を軸とした
株主還元の拡大をはかる。

(参考) 配当金推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015(予想)
配当(円/株)	15.5	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
一株利益(円/株)	125	69	64	43	▲111	18

第2次中計の進捗(エネルギー事業)

第2次中計戦略	2015年10月までの主な取り組み・成果
<p>基幹事業である石油精製販売の収益力強化</p>	Dr. Driveリニューアルの推進
	室蘭製油所の石化工場化に向けた原油処理停止
	水島製油所への石油コークス発電設備建設を決定(ボトム対策)
	鹿島製油所において溶剤脱れき装置および発電設備の試運転を開始(ボトム対策)
<p>エネルギー変換企業としての事業拡大の追求</p>	メガソーラー発電事業の推進
	電力小売事業への参入を決定
	商用水素ステーションを開所
	八戸・釧路LNG基地が稼働を開始
	川崎天然ガス発電所において計画段階環境配慮書を送付、増設の本格検討を開始
<p>海外市場におけるプレゼンス確立</p>	インドネシアにおいて燃料油の販売事業開始を決定
	インドにおいて潤滑油販売合併会社を設立
	韓国バラキシレン製造工場が商業運転開始
	インドネシア・ベトナムの製油所改修・新設プロジェクトへの参加検討を開始

第2次中計の進捗(石油・天然ガス開発事業)

第2次中計戦略	2015年10月までの主な取り組み・成果
<p>探鉱を主体とした埋蔵量・生産量の拡大</p> <p>地域・技術のフォーカスによる優位性の確立</p>	(オーストラリア)
	フィヌケインサウス油田が生産開始
	WA-49-R鉱区でガス層を発見
	WA-435-P鉱区で原油を発見
	(マレーシア)
	サバ州深海R鉱区で原油を発見
	(ベトナム)
	05-1b/c鉱区で天然ガス・コンデンセート層を確認
	(パプアニューギニア)
	LNGプロジェクトが稼働を開始
	(米国)
	火力発電所内石炭火力発電プラントの排ガス活用による原油増産プロジェクトを開始
(英国北海)	
キヌール油田が生産を開始	
22/16, 17b鉱区で原油を発見	

第2次中計の進捗(金属事業)

第2次中計戦略	2015年10月までの主な取り組み・成果
(資源開発) 鉱山権益拡大による高収益体制の構築	カセロネス銅鉱山で銅精鉱の生産を開始 バイオマイニング技術の商用化適用を開始
(銅製錬) 世界トップクラスのコスト競争力を有する事業体制を構築	銅精鉱・硫酸兼用船「鉱硫号」が竣工し、2隻体制がスタート 玉野製錬所において、パーマネントカソード化による電解工程効率化を完工
(電材加工) 各製品市場で世界トップクラスのシェアを維持・拡大	精密部材・コネクタなどを製造する掛川新工場が操業開始 スパッタリングターゲット材を製造する台湾新工場が竣工 世界最高強度を有するチタン銅箔の販売を開始 電解銅箔事業の構造改革を実施 台湾で無電解UBM (Under Bump Metallurgy) めっき加工サービスを開始
(環境リサイクル) ゼロエミッション環境配慮型の国際資源循環ビジネスを構築	各種メタル生産拠点の集約・効率化を実施 低濃度PCB廃棄物無害化処理事業の環境大臣認定を取得 米国にリサイクル原料集荷の営業拠点を設置



2015年度 第2四半期決算
(2015年4月1日～2015年9月30日)

2015年度 第2四半期決算概要 (前年比)

* 3月から8月の平均(≒到着ベース)

原油代(ト/バィ) (\$/B) *
銅 価 (¢/lb)
為替レート (¥/\$)

売上高
営業利益
営業外損益
経常利益 (うち在庫影響)
在庫影響除き経常利益
特別損益
親会社株主に帰属する当期純利益

2014年度 第2四半期 (実績)

105
暦年へ-ス (314) 313
暦年へ-ス (102) 103
(億円)
54,424
143
277
420
(▲296)
716
▲59
177

2015年度 第2四半期 (実績)

57
暦年へ-ス (269) 256
暦年へ-ス (120) 122
(億円)
45,526
▲455
178
▲277
(▲1,187)
910
▲135
▲449

差 異

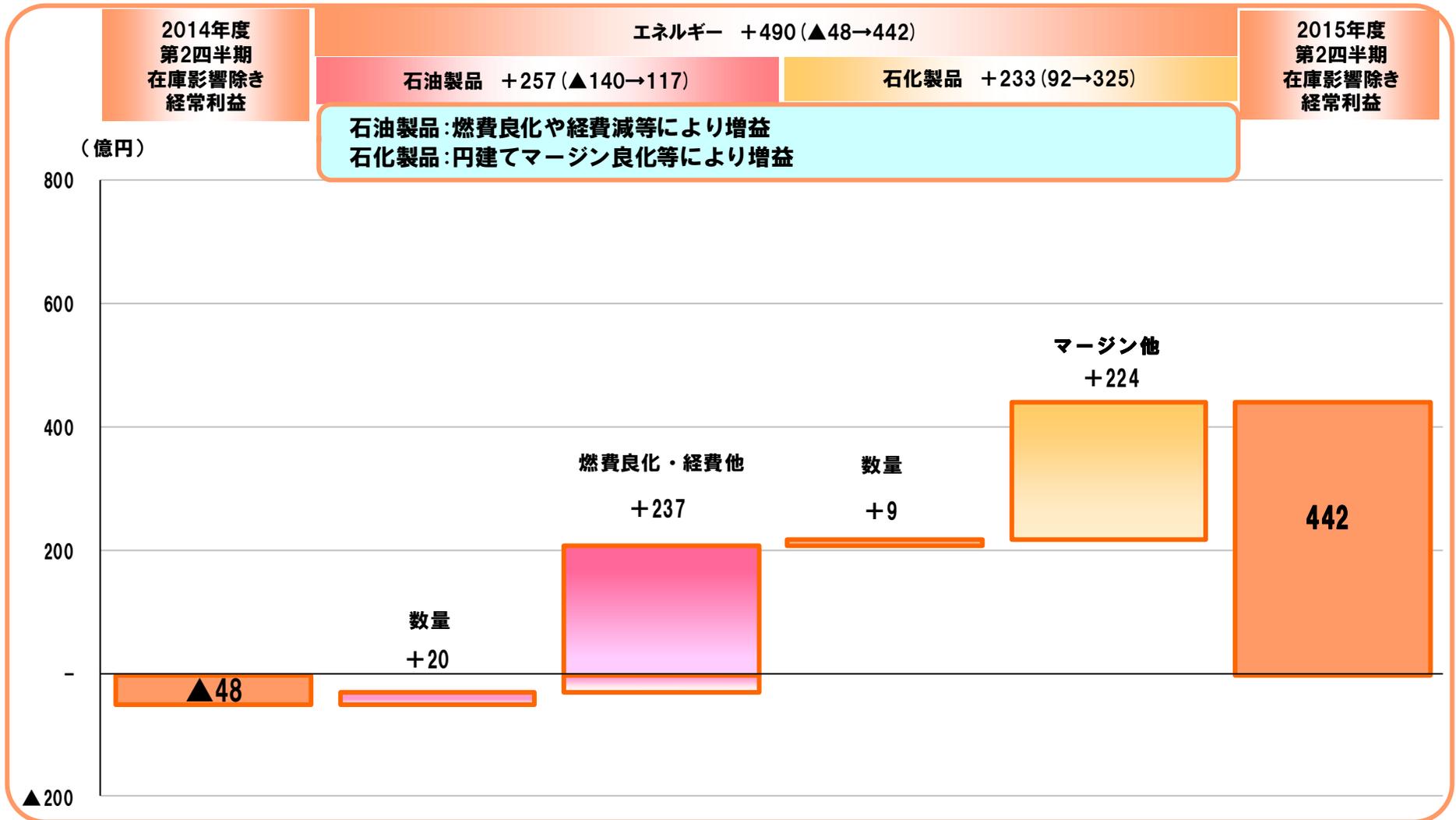
▲48	▲46%
暦年へ-ス (▲45) ▲57	暦年へ-ス (▲14%) ▲18%
暦年へ-ス (+18) +19	暦年へ-ス (+18%) +18%
(億円)	
▲8,898	▲16%
▲598	-
▲99	▲36%
▲697	-
(▲891)	(-)
+194	+27%
▲76	-
▲626	-

2015年度 第2四半期 セグメント別経常利益

(前年比)

	2014年度 第2四半期 (実績)	2015年度 第2四半期 (実績)	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
エネルギー事業	▲353	▲724	▲371	-
（うち在庫影響）	(▲305)	(▲1,166)	(▲861)	-
在庫影響除き	▲48	442	+490	-
（うち石油製品）	(▲140)	(117)	(+257)	-
（うち石油化学製品）	(92)	(325)	(+233)	+253%
石油・天然ガス開発事業	347	173	▲174	▲50%
金属事業	239	106	▲133	▲56%
（うち在庫影響）	(9)	(▲21)	(▲30)	-
在庫影響除き	230	127	▲103	▲45%
その他	187	168	▲19	▲10%
経常利益 計	420	▲277	▲697	-
在庫影響除き	716	910	+194	+27%

2015年度 第2四半期 エネルギー事業 経常利益増減 (前年比)



2015年度 第2四半期 石油・天然ガス開発事業 経常利益増減

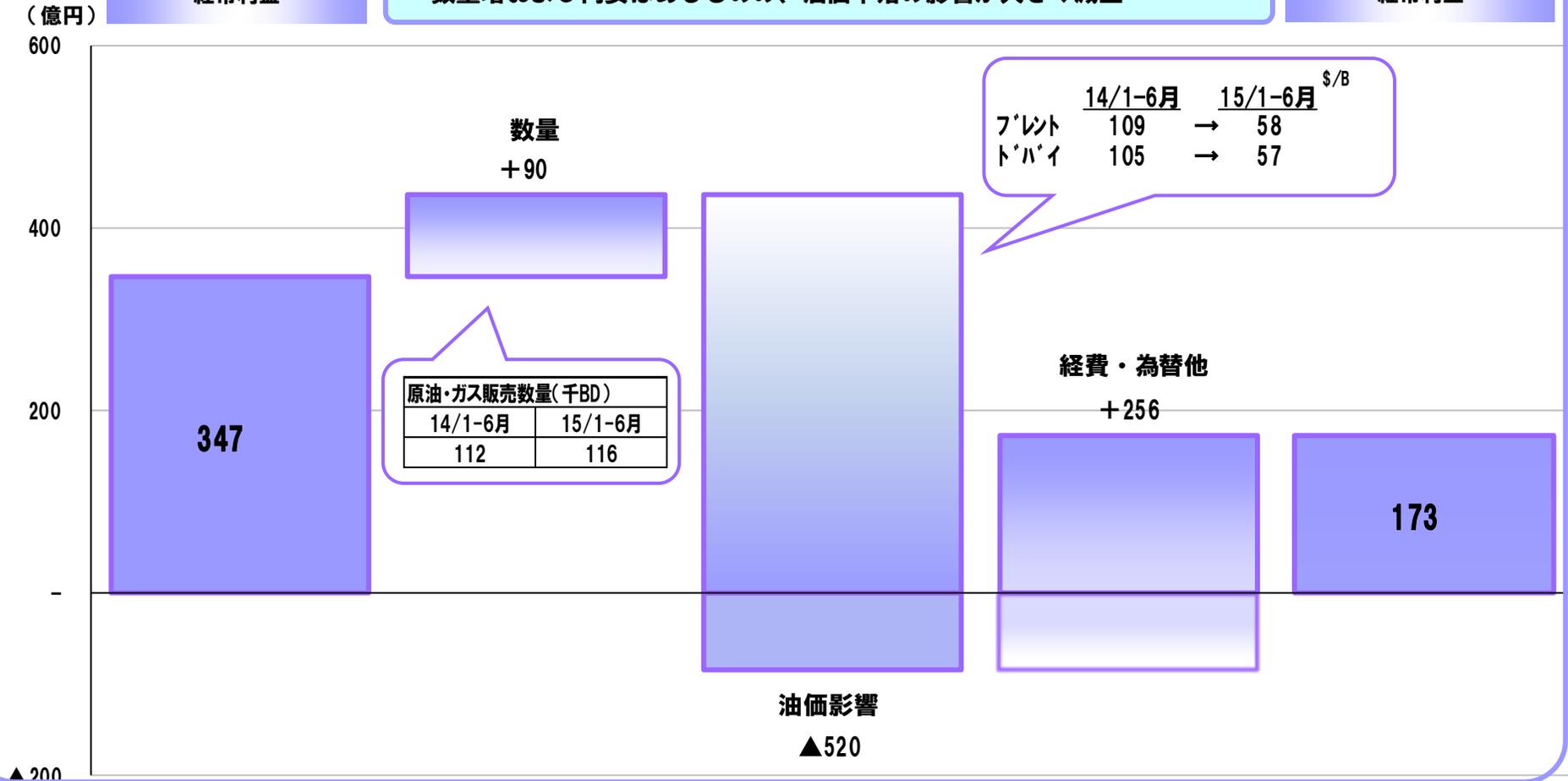
(前年比)

石油・天然ガス開発 ▲174 (347→173)

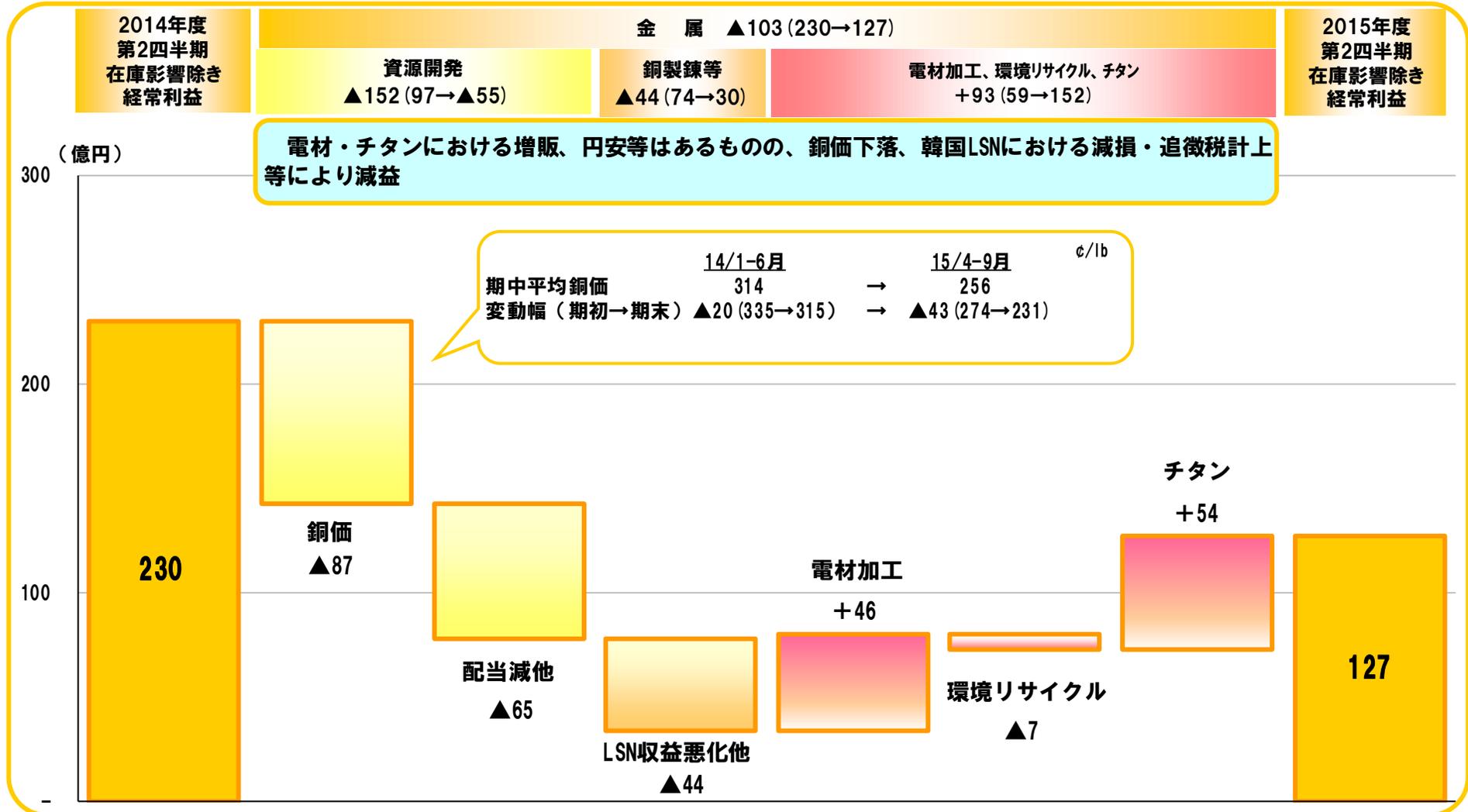
2014年度
第2四半期
経常利益

2015年度
第2四半期
経常利益

数量増および円安はあるものの、油価下落の影響が大きく減益



2015年度 第2四半期 金属事業 経常利益増減 (前年比)



2015年9月末 連結バランスシート

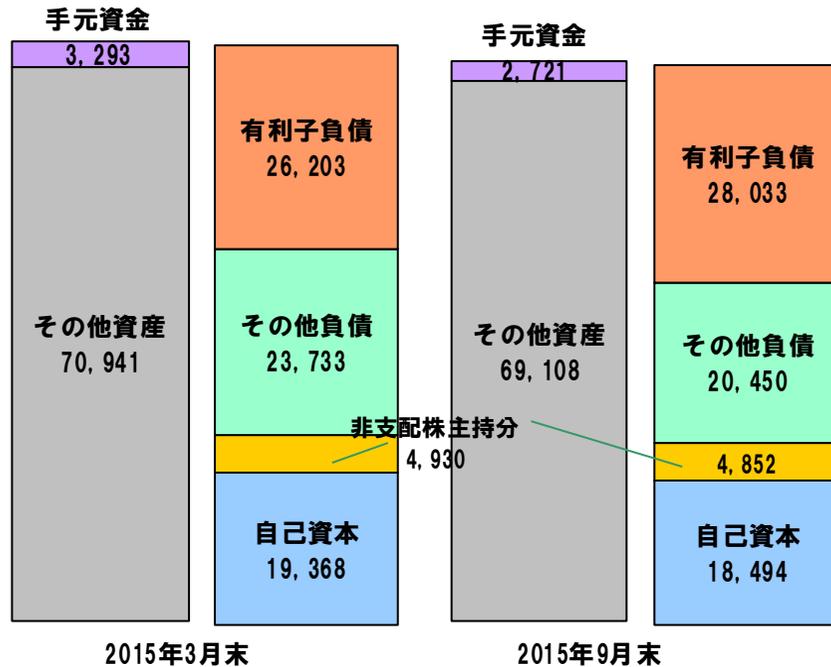
2015年度 第2四半期 連結キャッシュフロー

連結バランスシート

(億円)

総資産:74,234

総資産:71,829



手元資金を除いたネット有利子負債は2,402億円増加
(ネットキャッシュフローのマイナス [▲2,338億円] 等により)

連結キャッシュフロー

(億円)

経常利益	▲277
減価償却費	1,110
運転資金増減ほか	▲1,001
営業キャッシュフロー	▲168
投資キャッシュフロー	▲1,832
フリーキャッシュフロー	▲2,000
配当他	▲338
ネットキャッシュフロー	▲2,338

	2015年3月末 (実績)	2015年9月末 (実績)
自己資本比率	26.1%	25.7%
ネットD/Eレシオ	1.18	1.37

2015年度決算見通し
(2015年4月1日～2016年3月31日)

- ✓ 2015年10月以降の見通し前提は、原油価格50ドル/バーレル、銅価230セント/ポンド、為替レート120円/ドル

2015年度 通期見通し 概要(前回見通し比)

* 3月から2月の平均(≒到着ベース)

2015年度
見通し
(5月公表)

原油代(ト'ハイ) (\$/B) *	60
銅 価 (¢/lb)	270
為替レート (¥/\$)	115
(億円)	
売上高	96,600
営業利益	2,500
営業外損益	600
経常利益	3,100
(うち在庫影響)	(200)
在庫影響除き経常利益	2,900
特別損益	▲100
親会社株主に帰属する当期純利益	1,600

2015年度
見通し
(今回)

原油代(ト'ハイ) (\$/B) *	53
銅 価 (¢/lb)	243
為替レート (¥/\$)	121
(億円)	
売上高	93,500
営業利益	1,100
営業外損益	400
経常利益	1,500
(うち在庫影響)	(▲800)
在庫影響除き経常利益	2,300
特別損益	▲340
親会社株主に帰属する当期純利益	450

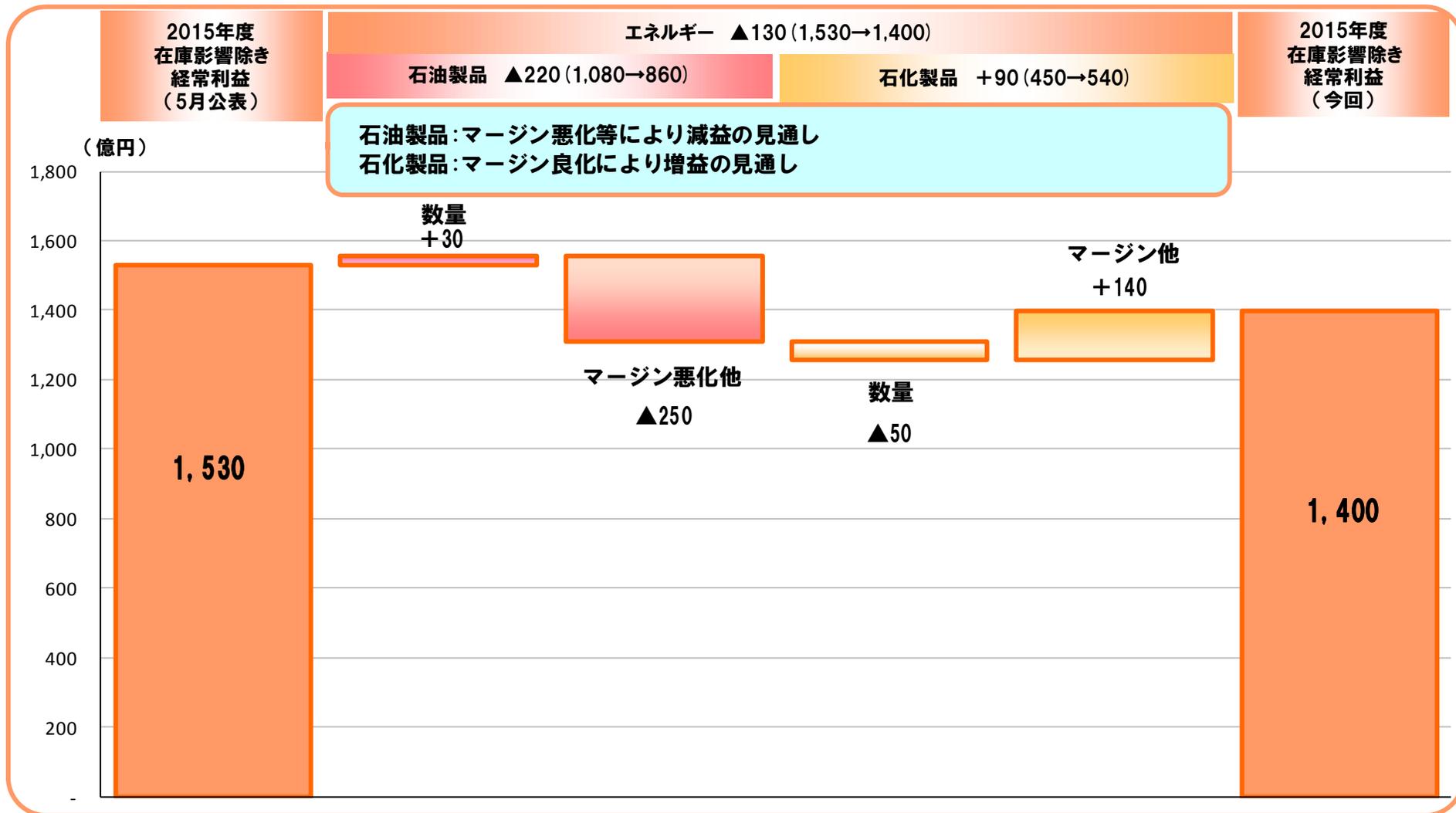
差 異

原油代(ト'ハイ) (\$/B) *	▲7	▲12%
銅 価 (¢/lb)	▲27	▲10%
為替レート (¥/\$)	+6	+5%
(億円)		
売上高	▲3,100	▲3%
営業利益	▲1,400	▲56%
営業外損益	▲200	▲33%
経常利益	▲1,600	▲52%
(うち在庫影響)	(▲1,000)	(-)
在庫影響除き経常利益	▲600	▲21%
特別損益	▲240	-
親会社株主に帰属する当期純利益	▲1,150	▲72%

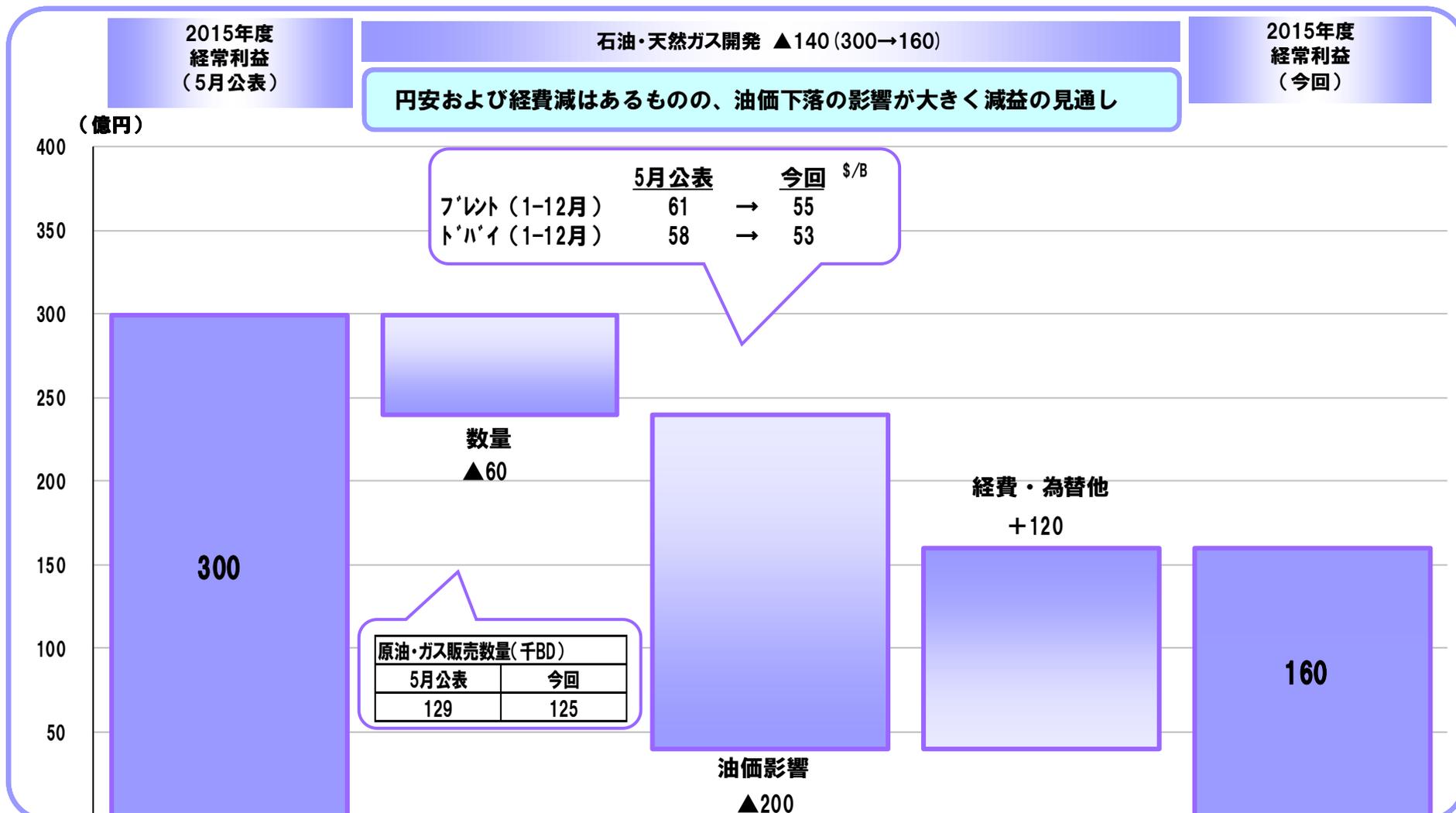
2015年度 通期見通し セグメント別経常利益(前回見通し比)

	2015年度 見通し (5月公表)	2015年度 見通し (今回)	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
エネルギー事業	1,730	620	▲1,110	▲64%
(うち在庫影響)	(200)	(▲780)	(▲980)	-
在庫影響除き	1,530	1,400	▲130	▲8%
(うち石油製品)	(1,080)	(860)	(▲220)	▲20%
(うち石油化学製品)	(450)	(540)	(+90)	+20%
石油・天然ガス開発事業	300	160	▲140	▲47%
金属事業	710	320	▲390	▲55%
(うち在庫影響)	(0)	(▲20)	(▲20)	-
在庫影響除き	710	340	▲370	▲52%
その他	360	400	+40	+11%
経常利益 計	3,100	1,500	▲1,600	▲52%
在庫影響除き	2,900	2,300	▲600	▲21%

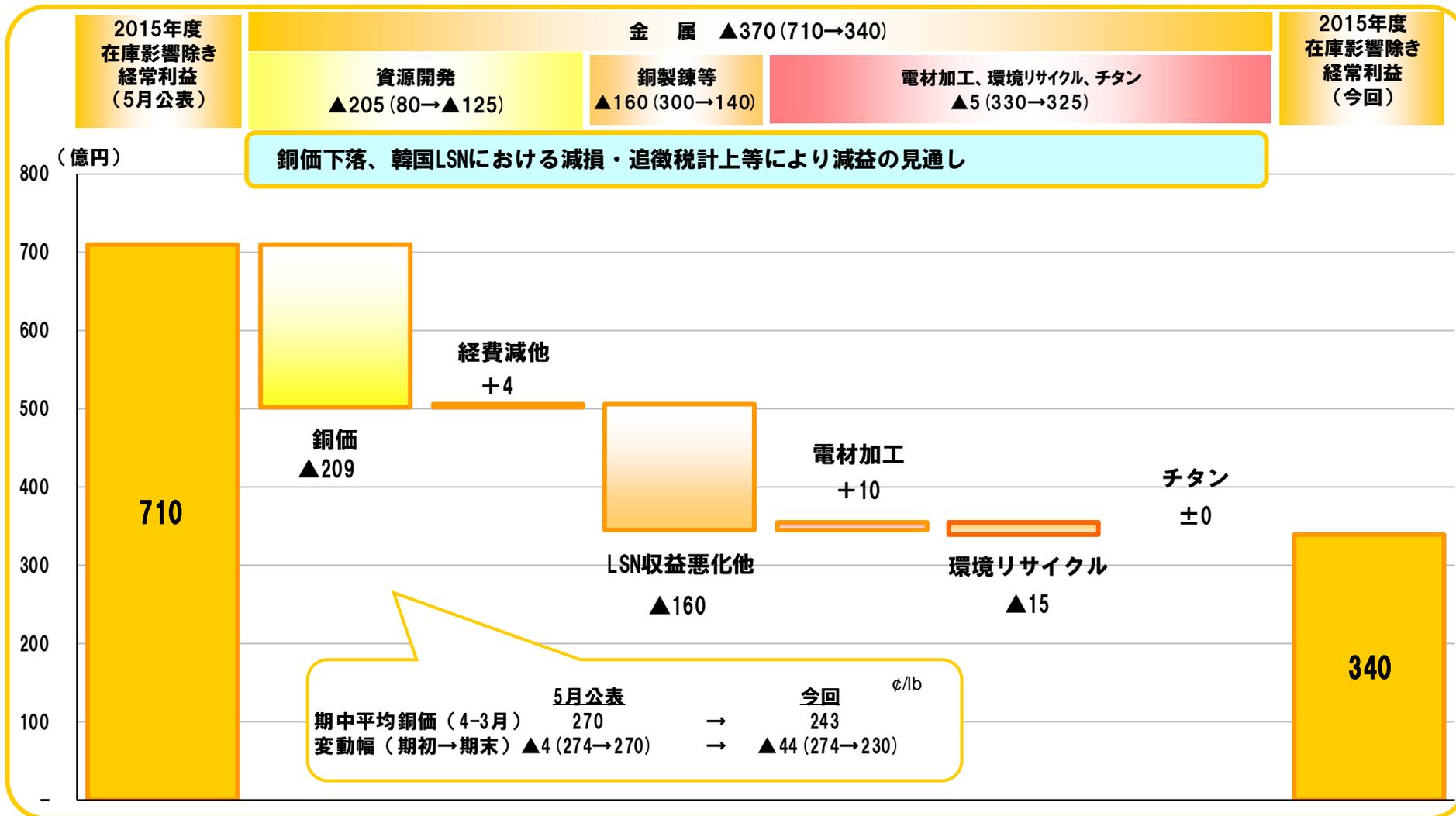
2015年度 通期見通し エネルギー事業 経常利益増減 (前回見通し比)



2015年度 通期見通し 石油・天然ガス開発事業 経常利益増減 (前回見通し比)



2015年度 通期見通し 金属事業 経常利益増減 (前回見通し比)



主なトピックス(2015年4月～2015年10月)

JXHD

5月 2016年1月より中核事業子会社の商号から「日鉱日石」を除くことを決定

JXエネルギー

4月 八戸および釧路LNGターミナルが商業運転を開始

6月 川崎天然ガス発電所において計画段階環境配慮書を送付、増設の本格検討を開始

9月 鹿島製油所において溶剤脱れき装置および発電設備の試運転を開始

JX開発

4月 マレーシア・サバ州深海R鉱区で原油を発見

8月 ブラジルにおいて探鉱鉱区権益を取得

8月 英国北海カリーンガス田の開発移行を決定

JX金属

5月 新めっき技術「ハイパーティン」を開発

5月 リスクマネジメント体制の一層の強化を目的とした組織改正を実施

前提条件

		2014年度			2015年度		
		1Q	上期	通期	1Q	上期	通期
		実績	実績	実績	実績	実績	見通し (11月公表)
共通	為替レート (円/ドル)	102	103	110	121	122	121
エネルギー	ドバイ原油価格<年度> ^{*1} (ドル/バレル)	105	105	88	59	57	53
石油・天然 ガス開発	原油換算販売数量 (千バレル/日)	115	112	115	113	116	125
	ブレント原油価格<暦年> (ドル/バレル)	108	109	99	54	58	55
金属	銅価格LME (セント/ポンド) ^{*2}	319	314	311	275	256	243
	銅鉱山権益生産量 (千トン/期・年) ^{*3}	33	65	148	39	81	206
	PPC銅販売量 (千トン/期・年)	152	307	623	144	308	597
	圧延銅箔販売量 (千km/月)	4.0	4.0	4.1	5.0	5.1	4.7
	精密圧延品生産品販売量 (千トン/月)	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.9
	環境リサイクル金回収量 (トン/期・年)	1.3	3.0	5.9	1.6	3.5	6.6

*1 到着ベース *2 決算期変更により、2014年度1Qは1-3月・上期は1-6月・通期は1-12月、2015年度1Qは4-6月・上期は4-9月・通期は4-3月。

*3 12月決算会社分は、1Qは1-3月・上期は1-6月・通期は1-12月、3月決算会社分は、1Qは4-6月・上期は4-9月・通期は4-3月。

感応度

■前提条件(2015年10月以降)

為替:120円/ドル

原油:50ドル/バーレル
(ドバイスポット)

銅価:230セント/ポンド

項目	変動幅	変動項目	影響度	(億円)
為替レート	5円/ドル 円安	エネルギー(燃費増、石化マージン良化等)	(+)	20
		石油・天然ガス開発	(-)	5
		金属	(+)	10
		小計	(+)	25
		在庫影響	(+)	190
		合計	(+)	215
原油FOB (ドバイスポット)	5ドル/バーレル 下落	エネルギー(燃費減等)	(+)	45
		石油・天然ガス開発	(-)	30
		小計	(+)	15
		在庫影響	(-)	450
		合計	(-)	435
銅価(LME)	10セント/ポンド 上昇	金属	(+)	40
		合計	(+)	40

*石油・天然ガス開発、金属の一部は1~9月の市況を通期決算見通しに織り込んでいます。

将来見通しに関する注意事項

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1)マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
 - (2)法律の改正や規制の強化、
 - (3)訴訟等のリスク など
- が含まれますが、これらに限定されるものではありません。